

わたしの未来設計<成長重視型> (分配抑制コース)

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2020年1月16日～2020年7月15日

第 4 期 決算日：2020年7月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の株式、債券およびリート（不動産投資信託証券）に分散投資を行い、利子・配当収益の確保ならびに値上がり益の獲得を目的としております。また、最適と判断する基本資産配分比率に基づき運用を行い、基準価額の大幅な下落を抑えることをめざします。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第4期末 (2020年7月15日)

基準価額	9,615円
純資産総額	2,080百万円
騰落率	-10.8%
分配金合計 ^(*)	0円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第4期：2020年1月16日～2020年7月15日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第4期首	10,782円
第4期末	9,615円
既払分配金	0円
騰落率	-10.8%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ10.8%の下落となりました。

▶ 基準価額の変動要因

下落要因

先進国株式や国内株式などの下落が基準価額のマイナスに影響しました。

2020年1月16日～2020年7月15日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	35	0.357	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(12)	(0.120)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(22)	(0.223)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.001	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	35	0.358	

期中の平均基準価額は、9,765円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

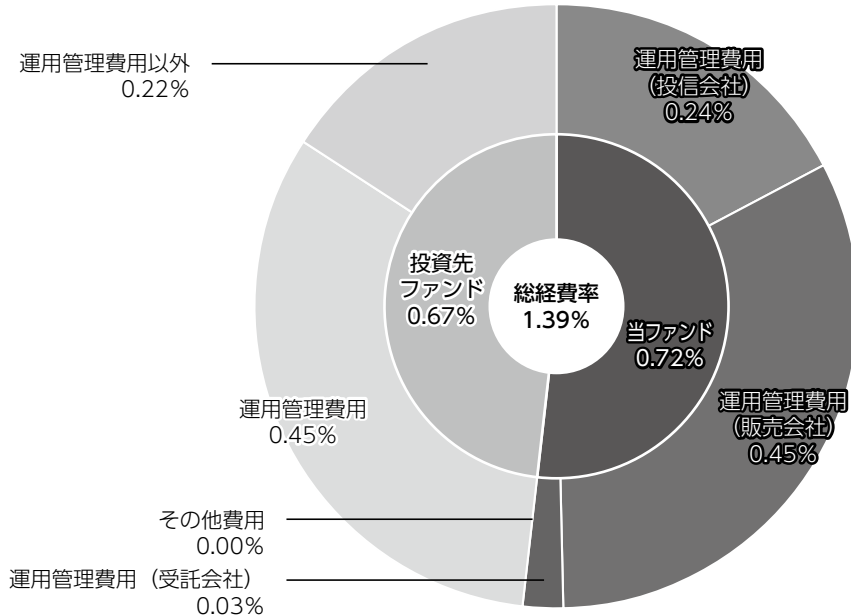
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.39%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.39
①当ファンドの費用の比率	(%)	0.72
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.45
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.22

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2015年7月15日～2020年7月15日

最近5年間の基準価額等の推移について



最近5年間の年間騰落率

					2019/7/16 期初	2020/7/15 決算日	
基準価額	(円)	-	-	-	-	10,118	9,615
期間分配金合計 (税込み)	(円)	-	-	-	-	-	0
基準価額騰落率	(%)	-	-	-	-	-	-5.0
純資産総額	(百万円)	-	-	-	-	1,511	2,080

※騰落率および期間分配金合計については、年間の値を表示しており、期間が1年に達していない場合には表示していません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第4期：2020年1月16日～2020年7月15日

投資環境について

【株式】

日本を含む先進国および新興国の株式市況は下落しました。

2020年2月中旬までは堅調に推移したものの、その後は3月下旬にかけて新型コロナウイルスの感染拡大を受け、世界的な実体経済停滞に対する懸念が高まったことなどを背景に大幅に下落しました。その後反発したものの、期を通してはいずれの市場も下落しました。

【債券】

海外先進国の債券利回りは低下しました。日本の債券利回りはほぼ横ばいとなりました。新興国の債券利回りは概ね上昇しました。

海外先進国では、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、世界的な実体経済停滞に対する懸念が高まったことなどを背景に投資家のリスク回避姿勢が高まったことや、主要中央銀行のハト派的な姿勢などを背景に低下しました。日本では、2020年3月上旬にかけては新型コロナウイルスの感染拡大を受け、世界的な実体経済停滞に対する懸念が高まったことなどを背景に投資家のリスク回避姿勢が高まったことや、主要中央銀行のハト派的な姿勢などを背景に低下しました。その後は上昇する局面もあり、期を通してはほぼ横ばいとなりました。新興国では、スプレッドの拡大などを背景に概ね上昇しました。

【リート】

日本を含む先進国のリート市況は下落しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、世界的な実体経済停滞に対する懸念が高まったことなどを背景に下落しました。

【為替】

為替市場では、米ドルは円に対して下落、ユーロは円に対してほぼ横ばいとなりました。米ドルは、2020年3月上旬にかけて新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念から投資家のリスク回避姿勢が高まったことなどから、円に対して下落しました。その後、期末にかけて上昇する局面もあったものの、期を通しては米ドルは円に対して下落しました。ユーロは円に対して、欧州中央銀行（ECB）の追加緩和策などを背景に、経済回復期待が高まったことなどが上昇要因となった一方、新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念から投資家のリスク回避姿勢が高まったことなどが下落要因となり、期を通してはユーロは円に対してほぼ横ばいとなりました。

【国内短期金融市場】

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移しました。

当期の短期金融市場をみると、日銀は長短金利を操作目標として金融市場調整を行いました。コール・レート（無担保・翌日物）はマイナス圏で推移し、2020年7月15日のコール・レートは-0.014%となりました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ わたしの未来設計<成長重視型> (分配抑制コース)

円建ての外国投資信託であるグローバル・ダイバーシファイド・ファンド（モデレート）を通じて、日本を含む世界各国の株式、債券およびリートに投資を行い、利子・配当収益の確保ならびに値上がり益の獲得をめざした運用を行いました。また、マネー・マーケット・マザーファンドへの投資も行いました。

(ご参考)

■ 資産構成

資産	組入比率	
	2019年12月末	2020年6月末
国内株式	18.0%	22.4%
先進国株式	38.5%	31.9%
新興国株式	1.6%	1.3%
国内債券	27.9%	27.5%
先進国債券	1.5%	0.1%
新興国債券	2.9%	8.3%
国内リート	4.7%	3.8%
先進国リート	1.9%	1.9%

- ・グローバル・ダイバーシファイド・ファンド（モデレート）に関する資料（評価対象日基準：当ファンドへの実質的な反映日）を基に作成しています。
- ・比率は投資先ファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・資産構成の「国内債券」には、為替ヘッジを行った「先進国債券」を含みます。

▶ グローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート)

主として「国内株式」、「国内債券」、「国内リート」、「先進国株式」、「先進国債券」、「先進国リート」、「新興国株式」、「新興国債券」の8資産(以下「8資産」ということがあります。)に分散投資を行いました。なお、「国内債券」には、為替ヘッジを行った「先進国債券」を含みます。

最適と判断する基本資産配分比率に基づき、運用を行いました。また、基準価額の大幅な下落を抑えることをめざしました。基本資産配分比率の見直しは、原則として年4回を行い、定量・定性の評価等を勘案し、8資産についてそれぞれの期待リターンとリスクを推計したうえで、目標リスク水準(年率標準偏差10%)において最も期待リターンが高くなると期待される8資産の組合せとして決定しました。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からのアドバイスを受けた、三菱UFJアセット・マネジメント(UK)が運用を行いました。

投資先ファンドにおいて、2020年1月末に原則年4回となる基本資産配分比率の見直しを行い、2月にかけてリバランスを行い、先進国株式などの配分を増やす一方、新興国債券などの組入比率を減らしました。また、投資効率を鑑み、2月中に先進国債券、新興国株式、新興国債券などの一部の銘柄について入れ替えを実施しました。

その後、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各ファンドの基準価額の大幅な下落を抑えるため、3月10日および3月13日に基本資産配分比率の見直しを行い、先進国株式や国内株式などの組入比率を大きく引き下げ、リスクを抑制したポートフォリオとしておりましたが、5月18日にリスク水準が統計的に正常な範囲内となったと判断し、実質的に通常時の基本資産配分比率に基づくポートフォリオへ見直しました。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド
コール・ローン等短期金融商品を活用し、利子等収益の確保をめざした運用を行いました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第4期
	2020年1月16日～2020年7月15日
当期分配金 (対基準価額比率)	- (-%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	1,108

(注) 対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

▶ わたしの未来設計＜成長重視型＞ （分配抑制コース）

引き続き、円建ての外国投資信託であるグローバル・ダイバーシファイド・ファンド（モデレート）に投資を行います。また、マネー・マーケット・マザーファンドへの投資も行います。

▶ グローバル・ダイバーシファイド・ ファンド（モデレート）

引き続き、適切な基本資産配分比率の管理を通じて、目標リスク水準（年率標準偏差10%）を目指した運用を行う方針です。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

消費者物価の前年比は依然として2%を大きく下回っており、今後も日銀による金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は引き続き低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、コール・ローンおよびCP現先取引等への投資を通じて、安定した収益の確保をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

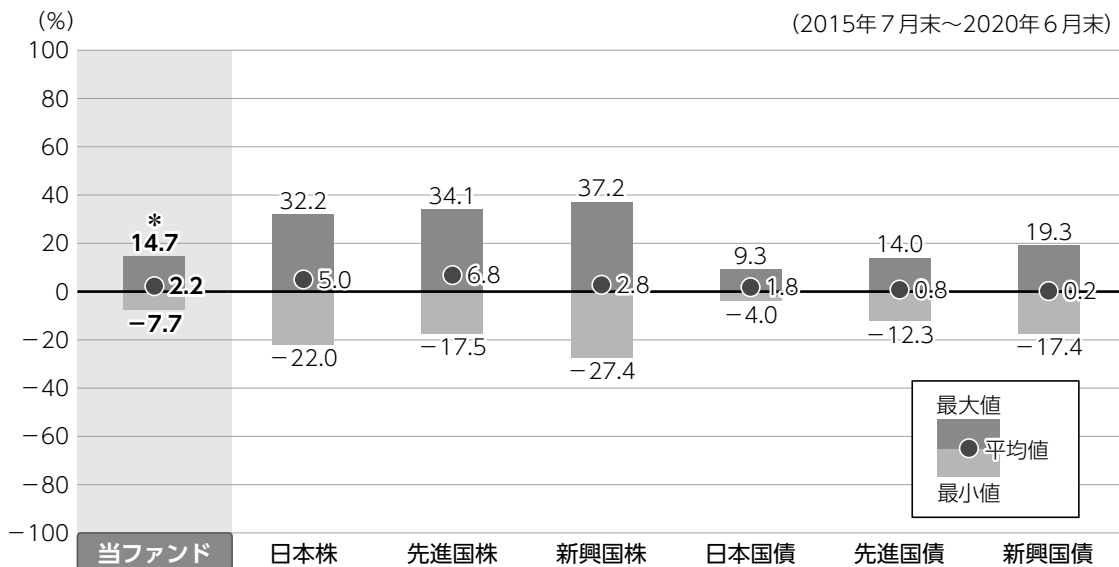
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufig.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限 (2018年9月4日設定)
運用方針	<p>円建ての外国投資信託であるグローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート) の投資信託証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式、債券および不動産投資信託証券に投資を行います。なお、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券への投資も行います。</p> <p>円建ての外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、投資する外国投資信託において外貨建資産に対して為替ヘッジを行い、国内資産の代替とする場合があります。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド グローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート) およびマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■グローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート) 日本を含む世界各国の株式、債券およびリートを投資対象とする上場投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■マネー・マーケット・マザーファンド わが国の公社債等を主要投資対象とします。</p>
運用方法	日本を含む世界各国の株式、債券およびリートに投資を行い、利子・配当収益の確保ならびに値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)</p> </div>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年7月から2020年6月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

*ファンドについては2019年9月～2020年6月の同様の騰落率を表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2020年7月15日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第4期末 2020年7月15日
グローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート)	98.7%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%

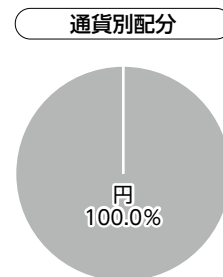
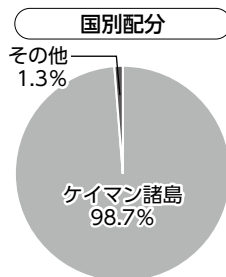
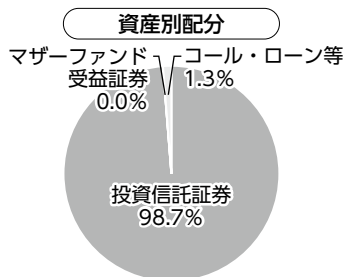
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

純資産等

項目	第4期末 2020年7月15日
純資産総額 (円)	2,080,824,743
受益権口数 (口)	2,164,140,660
1万口当たり基準価額 (円)	9,615

※当期中において追加設定元本は610,118,989円
同解約元本は 148,400,757円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

現地2019年9月30日現在

組入上位ファンドの概要

▶ グローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート)

基準価額の推移

現地2018年9月5日～2019年9月30日



1万口当たりの費用明細

現地2018年9月5日～2019年9月30日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

【参考情報】

費用項目	比率
信託（管理）報酬	0.49%
その他	0.24%
費用合計	0.74%

※上記は、Financial Statementsに掲載されている費用明細を三菱UFJ国際投信が「信託（管理）報酬」と「その他」に分類して表示したものです。

※比率は、上記分類による費用金額の合計を期中の平均純資産総額で除した参考値です。

※信託（管理）報酬は、最低報酬額が適用される場合があるため、純資産総額によっては比率が大きくなる場合があります。

組入上位10銘柄

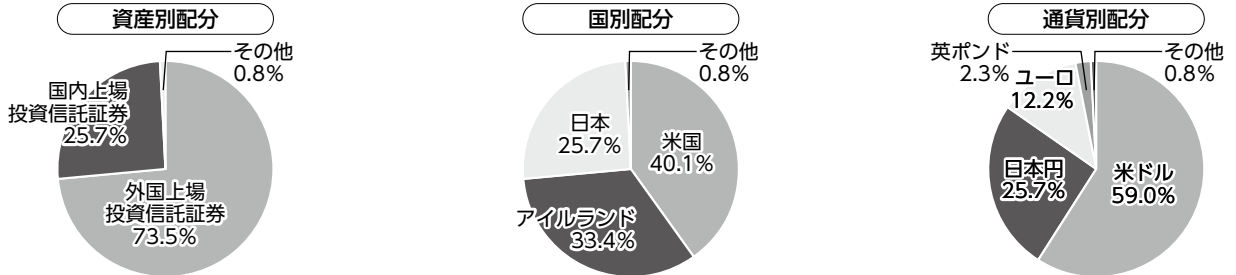
(組入銘柄数：13銘柄)

	銘柄	組入比率(%)
1	ISHARES MSCI KOKUSAI ETF	18.9
2	ISHARES US TREASURY BOND ETF	15.5
3	MAXIS TOPIX ETF	13.1
4	ISHARES CORE EURO GOVT BOND	12.2
5	ISHR EDGE MSCI WRLD QLY FCTR	9.5
6	ISH EDG MSCI WLD MNVL USD A	9.4
7	ISHARES MSCI JPN MIN VOLT	6.7
8	MAXIS J-REIT ETF	5.8
9	ISHARES JP MORGAN USD EMERGI	3.4
10	ISHARES CORE UK GILTS	2.3

※比率はグローバル・ダイバーシファイド・ファンド (モデレート) の純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

種別構成等



※比率はグローバル・ダイバーシファイド・ファンド（モデレート）の純資産総額に対する割合です。

※国別配分、通貨別配分は、国内・外国上場投資信託証券（ETF）部分のみの配分比率を記載しています。

※その他は、現金・現金同等物、為替ヘッジの含み損益などを含みます。

※通貨別配分は、ヘッジ考慮前のデータを記載しています。

※組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、グローバル・ダイバーシファイド・ファンド（モデレート）の資料を基に、三菱UFJ国際投信が作成したものであり、運用報告書（全体版）とは異なる場合があります。

968469

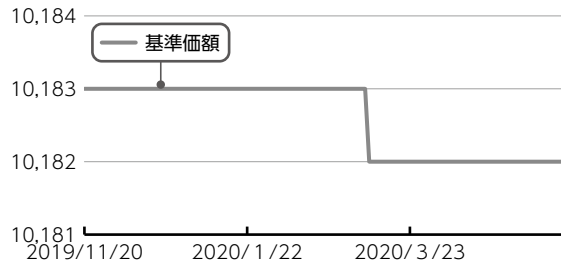
2020年5月20日現在

組入上位ファンドの概要

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

基準価額の推移

2019年11月20日～2020年5月20日
(円)



1万口当たりの費用明細

2019年11月21日～2020年5月20日
当期において費用が発生していないため、費用明細は作成していません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：1銘柄)

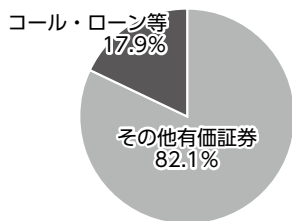
	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	アプラス 200521	その他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	82.1
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

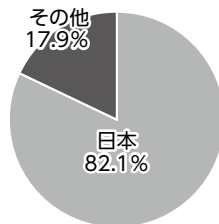
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

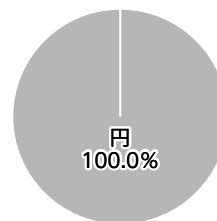
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI (国債)

NOMURA-BPI (国債) とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権は J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信